

「カゴに乗せ、つりおろす！」

使徒言行録 9 章 23～25 節

聖学院小学校・幼稚園チャプレン 中村 謙一

サウロとは、イエス様の弟子、パウロのことです。パウロは、新約聖書の中で、「～への手紙」という書物を沢山書いた人です。パウロは、イエス様の愛の教えをローマ帝国の地中海側の世界へ伝え教会を建て、多くの人々に手紙を書いたイエス様のお弟子さんの一人でした。パウロは、外国人ヘイエス様を伝えたので「異邦人の使徒」と呼ばれていました。異邦人とはユダヤ人以外の外国人という意味です。「使徒」とは、神様から、つまり、神の御子イエス様から招かれ世に送り出された弟子たちのことです。イエス様の愛の教えを伝えるためにイエス様によって直接この世へ遣わされた弟子たちのことです。

さて、パウロは、ダマスコで大変なことになりました。イエス様の愛の教えに反対するユダヤ人たちが、パウロを殺そうと、ダマスコの門で待っていたのです。ダマスコは高い城壁という壁に囲まれた大きな都市でした。門という門はすべてユダヤ人たちが待ちかまえていました。門から出る人は皆、このユダヤ人たちのチェックを受けました。ユダヤ人たちは皆、パウロをよく知っていました。昔、このユダヤ人たちと一緒に仕事をしていたことがパウロにはあったのでした。仕事とは、教会を弾圧し、クリスチャンを牢に入れることでした。パウロはその時、サウロという名でした。イエス様を信じる人となり、サウロは変えられました。そして、洗礼を受けてサウロはパウロと名を変えたのでした。エルサレムからダマスコへ来たのも、サウロは教会を滅ぼすためでした。しかし、ダマスコへの途上で、サウロは天からの光に撃たれ、光の中からイエス様の声を聞き、目が見えなくなり倒れ込み、食べられなくなり死ぬ寸前でイエス様に赦され、教会に助けられたのでした。

赦されてすぐにサウロは洗礼を受け、パウロとなってイエス様をダマスコで伝える者となりました。すると、一緒にダマスコに来ていた、昔一緒に教会を滅ぼそうとしていたユダヤ人たちがパウロに対して大変怒って、パウロを殺そうと計画しダマスコの門で待っていたのでした。もしもこの時、パウロが門から出ていたらパウロは殺されていたことでしょう。イエス様は、天からパウロを見守っていました。そして、パウロの弟子たちにアイデアを与えました。それが、パウロをカゴに入れ、ダマスコの城壁の壁の上からそーっと吊り下げてパウロを逃すことでした。パウロの弟子たちは、そのアイデアを祈って神様から、イエス様から受けたのでした。そしてそのアイデアを実行し、パウロはうまくダマスコから出て逃げる事ができたのでした。ユダヤ人たちは大変悔しがりました。これ以後、パウロはユダヤ人たちからあらゆる迫害を受けるようになりました。パウロは何度もユダヤ人たちから訴えられたり、殺されそうになったりしました。しかし、その度に、神様が、イエス様がパウロを助け守りました。

諦めずによく考えましょう！ もしも諦めたら、パウロの命は奪われていたことでしょう。諦めずによく考えた弟子たちが教会にいたから、パウロは助かりました。私たちも、日々の生活の中で、難しい問題にぶつかった時に、すぐに諦めずに、「もう、ダメだ！」と思う時にも、よく考えて物事にあたりましょう。きっと良いアイデアを神様がくださるでしょう。イエス様のみ名で良いアイデアを祈り求めましょう。よく祈って、神様の知恵をいただいて、問題を乗り越えて行きましょう！ 祈ります。

天の父、神の御子主イエス・キリストによって救ってくださる愛の神よ、ダマスコでパウロをカゴの中に入れて壁から吊りおろして助けられたように、困っている時、どうか私たちをお助けください。その時、どうか、あなたの知恵を祈り求めさせてください。そして、良いアイデアを用いて、問題を乗り越えさせてください。すぐに諦めることなく、あなたによく祈る者として歩ませてください。この祈り、十字架と復活の神の御子主イエス・キリストの御名によって、御前にお献げいたします。アーメン。

2023年10月25日 聖学院小学校3年生のクラス礼拝